

Lifeみやぎ

エイジングマガジン



2018年6月20日発行

発行 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目2-3
TEL.022-223-1171 FAX.022-223-1151
ホームページ http://www.miyagi-sfk.net/
(※トップページの「広報」で紙面を閲覧できます)

企画編集 河北新報社
協力 宮城河北会

INDEX

- 3-4 “笑い”を楽しもう
- 5 金太郎体操
- 6 イベント&トピックス/シネマレビュー
- 7 ピックアップ
- 9-10 宮城いきいき便り
- 11 いきいきSUNクラブnews
- 12 SUNSUNTライ/短歌/俳句/川柳
- 13 いきいきサロン
- 14 Q&A



落語家や芸人の名前が書かれた板がずりりと張られた建物



マイクを通さなくても声が届く距離で落語が聞ける



公演前にアーケード街で呼び込みをする白津さん



入り口からほど近くに赤ちょうちんが連なり、寄席らしい雰囲気を醸し出す

DATA **魅知国定席 花座**
 仙台市青葉区一番町4-4-23
 TEL022-796-0873
 ※開場・開演時間は公演によって異なる

最近ドラマやバラエティー番組などで取り上げられ、世代を問わず話題を集めている落語。仙台市では今年4月、365日無休で落語や漫才、民謡などが楽しめる「魅知国(みちのくに)定席 花座」がオープンした。花座で「席亭」を務める白津守康さんに落語の歴史や楽しみ方、花座の魅力伺った。3面では落語家、春風亭柳之助さんのインタビュー、4面では県内で笑いをテーマに活動する「日本笑い学会 東北支部 石巻支部」をご紹介します。

始まりは戦国時代

織田信長や豊臣秀吉といった戦国大名のそばに仕えた「おこぎ衆」や「おはなし衆」が、大名の気晴らしのために愉快な話を語ったのが落語の始まり。

さらに仏教をおもしろおかしく語った浄土宗の僧侶、安楽庵策伝が覚えられた笑いを江戸時代初期にまとめた「醒睡笑(せいすいしょう)」という本には「子ほめ」「平林」といった今でも親しまれる

落語の原型が記されている。その後江戸と大坂で寄席が登場し、安価で気軽に楽しめる落語は庶民の間で人気を集めた。現代では大きく分けて、江戸時代に作られた「古典落語」と、大正時代以降に作られた「新作落語」の2種が演じられている。

花座を経営する席亭、白津守康さんは「落語はストーリーが決まっているが、演じる落語家によって細かい部分をアレンジすることもできる。初めて聞く落語はもちろん面白

間近で迫力の公演

落語の魅力伝えようと、白津さんが2010年に始めたのは「魅知国 仙台寄席」。仙台市内の会場月に1度、寄席を開いてきた。その寄席を訪れた客から「月に1度だけじゃなく、もっと落語を見たい」といった声が上が

いし、2回目以降は落語家ごとの語り口の違いやアレンジした部分を発見して楽しめる」と落語の魅力を話す。

席を造れないかと考え始めたのが約4年前。構想が形になり今年4月、いよいよ定席の寄席として花座をオープンさせた。これまで月に1度だった寄席を、一年を通じて開いている。

約40席とコンパクトな会場で落語を楽しむのが花座の特長。客席と距離が近いので、落語家や芸人はマイクを使わない。一番後ろの席でもしっかりと生の声が聞け、一つの表情を確かめられるため迫力のある公演が堪能できる。

白津さんは「定席の寄席は全国的にも少ない。普段は東京で活動している落語家を間近で見られるチャンスなので、ぜひ訪れて魅力を体感してほしい」とアピールする。

新しいことにも挑戦

毎日寄席を開くだけでなく、若手落語家が経験を積む場所にするのも目標だ。東京から積極的に若手落語家を招き、約10日間前座などを務めてもらう。白津さんは「若手落語家を育てることは落語界の発展につながる。そういった役目も担っていききたい」と意気込む。

ゆくゆくは花座ならではのイベントの企画も仕掛けていく考えだ。「私はジャズが好きなので落語とジャズをコラボレーションしたり、一般向けに落語スクールを開いたり新しいことにも挑戦したい」と白津さん。地元だけでなく、全国へ落語の魅力を発信する拠点となりそうだ。

(3面に続く)